

ひきこもる寛容に目覚める朝をむかえよう

勇気という言葉に疑っている。「家の子どもは勇気がなく学校へ行けない」と来所する親御さんはつぶやく。子ども若者自身も「勇気を出すにはどうしたらいいですか」と息を詰まらせ伝えてくる。僕は「勇気という言葉の使い方、疑ってみませんか?」と切り返してきた。

少々不安になって広辞苑を引く、『勇ましい意気、物に恐れない気概』とある。やはり「恐れず」勇気を出して学校へ行く」「いじめの子に“勇ましく”立ち向かう」と理解し、さらに「命がけで不安な学校に“勇んで”行く」「いじめ暴力に“恐れず”命をかける」と極論したくなる。勇気に潜む精神論・根性論を感じていたからだ。何故かと言えば、僕は「働かない、学校へ行かない」というひきこもる行動が貴重で、子ども若者が実存をかけ大人がこれまで生きてきた歴史を問い直させ、寛容な生き方が大切だと教えられた実感を抱くからだ。

成長のために命を削る教育や労働から、解放される

不安な学校やいじめに立ち止まり、自死で応える子どもがいる。社会や大人は「立ち止まらない勇気を! 自死しない勇気を!」と善意の声を上げ、叫ぶ。親御さんや子どもが「もっと勇気を!」と思ってしまうのも不思議はない。学校へ行かないで、いじめに苦しんで、働かないでひきこもるのは勇気がない証拠、自虐に自身を追い込む現実につながっている。

僕は学校へ行かない、いじめに苦しむ、働かないことは自身で決断する自立的な行動と理解している。家族近親者に発生してしまう殺人・虐待、いじめ・パワハラそして自死をふりかえれば明らかで、いじめや自死をとどまること、殺人や虐待をやめることが、人としての最大の生き方である。自然災害にあっては“逃げる・避難する”という身を引く・守ることが最大の幸福な行動、生きていることが幸せな行動なのだ。人間としての生命性、根底にあるのは自他を守る自然性に基づく行動である。死を恐れない勇気はナンセンス、死を恐れよ!だ。

中秋の名月 by 川辺悟史



明治以降の日本は命を愛おしむのではなく、成長のためには命を削る成長路線を走ってきた。欧米に追いつけ追いこせの強兵で命を削り、敗戦後は経済発展への企業戦士で命を削った。前に進むための犠牲としての命、これを勇気ある命と言った。明治維新150年を経ても、人の命を根底にすえられない市民社会を生かされている。こらで、命を基本に生きていく人間的な市民社会を実現したい。ひきこもる寛容に目覚める朝を迎えたい。(滝田)

- 10月予定** ○14日(日)pm2: 横須賀応援団会議・マジスティック・リトルエジソン in 横須賀サホセン
○17日(水)pm2: 憲法学習会「檻の中のライオン」椋(はんどう)大樹弁護士 in 逗子市商工会議所
○19日(金)pm2時: 講演「現代社会が抱える課題 不登校、ひきこもり」in 港南区福祉保健
○27日(土)pm2時:(未定)講座「思春期をむかえる子どもたちに向き合う親たちへ その1」Largo/鎌倉応援団 in Largo
○28日(日)pm3: 逗子応援団会議・ひきこもり発信プロジェクト・ゆずりはの会 講演会「ひきこもる心を理解する」丸山康彦さん in 逗子市商工会議所
○鎌倉市教育センター: 2日(火), 5日(金)大船小, 9日(火)深沢小, 12日(金)富士塚小, 16日(火), 23日(火), 26日(金), 30日(火), 31日(水)
○Largo: 4日(木), 11日(木)
○研究所相談: 4日(木)・11日(木)pm, 18日(木)

コラム風 誰も置き去りにしない その第一歩

加藤彰彦さん(元沖縄大学学長)よりおハガキをいただき、『9月号の「世界」(岩波書店)が沖縄特集をしてくれます。その中でインタビューを受けましたと』と。ほぼ毎月激励のおハガキを頂いております。加藤さん発行の「暮らしのノート」(その前は“生活者”発行)は今年度で終焉と書かれております。僕は勝手に人生の師と仰ぎ、研究所活動にも17年市民サミット議長をはじめ再三再四お力を頂いております。以下は暮らしのノート9月号 No63 一部紹介

○『(3面)「誰も置き去りにしない」第一歩としてのファンド設立のお願い(案) …国連総会で決定されたSDGs〔持続可能な開発目標〕の主要な柱の一つが「誰も置き去りにしない」というものです。不幸の中に置き去りにされ、見捨てられる子どもを一人も出さないようにしようという気の遠くなるような目標です。しかし、誰かが始めなくてはならないのです。最初は小さなものであってもその目標に向かってあゆみださなくてはなりません。その一歩として、まずはこのファンドを作ることにしました。お力をお貸してください。』(加藤彰彦さん)

前回報告しましたが、8月22日(水)フリースクール Largo で古屋力東洋学園大学教授とホリケンのお力をいただきSDGs の学びを地域の子ども大人約60人で進めましたこと、実に奇遇と受け止めました。僕も加藤さんの活動に賛同したく参画したいと思っています。(滝田)

それぞれの風 ○いつも通信を送付していただき、ありがとうございます。深い内容にいつも考えさせられながらも…毎回楽しみに読ませていただいております。紙面刷新してからの新舩さん撮影の写真も、とてもすてきですね。海と空と大地と光のコラボがいいですね。これからも楽しみです。…現在勤務校に不登校の生徒が約10名、完全にひきこもっている中3男子もいます。幸せな学校、幸せな社会をめざして今、何ができるのか…またゆっくりお話しさせていただくことができるといいなと心から願っています。(I.G.さん)※切手寄付に感謝💕

○この頃想うのは…すべては私たちの年代、世代が良かれと思ってやってきたことの結果です。それは素直に認めなければなりません。そのことを踏まえたくえで助言しないと、私の中にある 当りまえ がこんな世の中にしてしまったことを知ったくえでモノを言わないと、圧が、今流行のパワハラになってしまうんです。私の強い『私の考え』は私の中に納めない、と思うのです。(島根三枝子さん) ※逗子応援団新舩 & 橋本さんと歩みながら(滝田追記)

○9月2日(日)横須賀応援団会議、マジスティック涌井さんが自身を語りながら絶妙なファシリテーターで穏やかに参加者12人の心のうちを引き出してくれました。リルエジソンの龍崎さんは仕事を問い、友人の吉野さんの教育批評に呼応し学びと働くを結ぶ事業展開です、ご期待ください。僕の教え子(授業のみ?)M.H.さんが介助の方と車いすで参加を重ねています。口話が難しく絞り出す語りで日常を笑顔で交流してくれます。今回は近況と「作業所の賃金が安いです」と、皆は考えを深め次回へつなげます。

○9月23日(日)逗子応援団会議、ひきこもり発信プロジェクト新舩さんは支援について体験を交え“繋がっている安心、共に過ごす居心地のいい支援機関を”と和やかに語りました。後半の橋本 & 中西さんのゆずり葉の会は親の交流でした。僕も2ヶ月ぶり、3人の方と久しく会話できました。



【発行編集:滝田衛】住所:携帯:09072124055 メール:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp

●研究所ホームページ:<http://shichirigaoka-lab.jimdo.com/>

●応援団フェイスブック:<https://www.facebook.com/kodomowakamono.ouendan/>